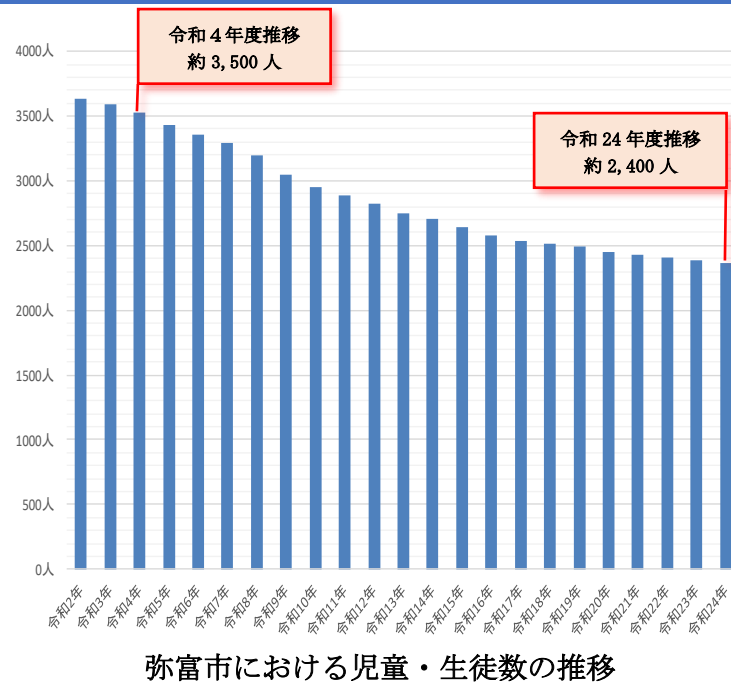


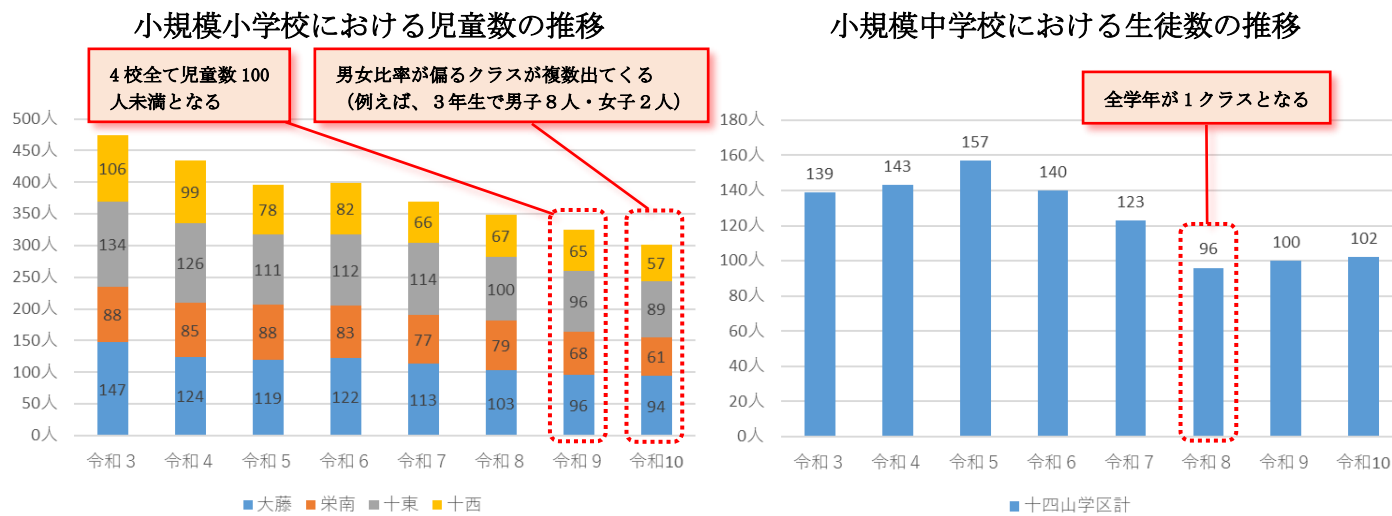
1 背景

これまでに、弥富市としては、平成 27 年度に「弥富市公共施設等総合管理計画」策定を始まり、「子どもの教育環境に関するアンケート」、「公共施設市民フォーラム」において、有識者及び市民の方々と意見交流をし、「弥富市公共施設再配置計画」を策定しました。また、子どもたちのより良い教育環境を確保するために、弥富市教育委員会では、小規模校学区の PTA 役員、保育所保護者会代表、地域の区長及び有識者等と意見交換をし、学校再編の必要性について検討を進めてまいりました。これらを踏まえて、弥富市がめざす教育方針を具体化するために、「弥富市小中学校未来構想」を策定しました。



【弥富市の現状】

全国的に少子化傾向が進む中、弥富市においても、小中学校の児童生徒数が減少し続け、小規模小学校 4 校においては、5 年後には、児童数が 100 人に満たない状況となります。



2 弥富市がめざす教育方針

「一人一人が輝き、よく学び 心豊かで たくましい 弥富の子」

をめざす児童生徒像とし、「生きる力」の育成、それを支える学校の教育力の向上を図っています。

「生きる力」を身につけるためには、様々な考えに触れ、互いに学び合い、認め合い、協力し合い、切磋琢磨する中で学ぶことができる教育環境が必要であり、一定規模の児童生徒数の確保を図るなど、子どもたちの健やかな成長を支えるより良い教育環境を推進する必要があると考えます。

3 小中学校の適正規模

【小学校の適正規模】 1 学年 2 学級以上が望ましい。

【中学校の適正規模】 1 学年 2 学級以上が必要で、少なくとも 9 学級以上が望ましい。

(参考：文科省 適正規模・適正配置に関する手引き)

弥富市として

小規模校の課題

- 多様な学習形態が制限される。
- クラス替えができず、人間関係の固定・序列化してしまう。
- 部活動の種類が限定される。
- 男女比の偏りが生じやすい。
- 社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい。
- クラス同士が切磋琢磨し、高め合うような教育活動ができない。

再編を行うことで

- 一定以上の人数でグループ学習やグループ活動を行うことで、協調性、連帯感、励ましあいながら物事を達成する喜びを学ぶことができる。
- 児童生徒数、教職員数が多いため、多様な学習・指導形態を取り入れやすい。
- クラス替えが可能となる。

4 保護者や地域の声

保護者や地域の声

- それなりの人数の中で競争して、中学校、高校、社会で対応できる子になってほしい。
- 毎年クラス替えがあって環境が変わるほうが良い。
- 6 年間 1 クラスはメリットもあるが、子どもたちにとっては問題に直面した際に苦しい場所となる。
- 現在手厚くしてもらっていて満足しているので、無理に人数を増やすことを考えなくても今のままで良い。
- 再編するならば、通学にスクールバスが欲しい。
- 編入再編をする場合、子どもたちに精神的負担があるため、その前に部活動を一緒に行い交流することができれば安心できると思う。
- 少人数で良いところはあるが、クラス替えがないので、保育園から 12 年間ずっと同じ子と一緒にいる。その良さもあるが、やはり中学へ上がる時に戻込みをする子どもが多い。
- 自分たちの子どもの頃の状況と比べると、今は、変化が求められている時。変革の時代であると思われる。ちょうどそのタイミングではないか。

5 基本方針

～小学校再編の基本方針～

令和 10 年 4 月を目途に大藤・栄南・十四山東部・十四山西部小学校の 4 校を再編

- 統合時期は、各学校で男女の比率が偏っている学年が複数出てしまう令和 10 年 4 月を目途とする。
- 保護者の意見や地域の声を十分検討し、統合による不安や課題を解決していく。
- 小規模校 4 校それぞれの特色を活かしつつ、再編を検討する。
- 児童・保護者の心の不安を和らげるよう、児童、教員の交流を丁寧に進める。

～中学校編入の基本方針～

令和 7 年 4 月に十四山中学校を弥富中学校へ編入する。

- 編入時期は、十四山中学校で全学年が 1 クラスとなる前までの令和 7 年 4 月とする。
- 編入時期に進級する 2・3 年生は一斉に編入する。1 年生については、弥富中学校に入学する。
- 生徒・保護者の心の不安を和らげるよう、生徒、教員、部活動の交流を丁寧に進める。